

研究の概要

1 研究主題

(1) 研究主題

豊かな人権感覚を持ち、認め合い、ともに生きる生徒の育成
～人権感覚を育む学習活動づくりとよさを認め合う集団づくりを通して～

(2) 研究主題について

豊かな人権感覚 : 人権が守られることを肯定し、侵害されることを否定する感覚

認め合い、ともに生きる : 自他の人権を尊重し合い、他の人とともによりよく生きる

人権教育を通して育てたい水上中生

- 「確かな学力」を身に付け、自分の考えを自信を持って表現できる生徒
- 仲間の思いに気付き、他の人の考えを認めることができる生徒
- 人のために、気付き、考え、行動できる生徒

「人権感覚を育む学習活動」

人権に関する知的理解・人権を尊重しようとする意欲や態度・人権を尊重するための技能を身に付ける学習

「よさを認め合う集団」

自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを生徒自身が実感できる集団

[第三次とりまとめ]

「人権感覚とは人権の価値やその重要性にかんがみ、人権が擁護され、実現されている状態を感知して、これを望ましいものと感じ、反対に、これが侵害されている状態を感知して、それを許せないとするような、価値志向的な感覚である。(中略) 価値志向的な人権感覚が知的認識とも結びついて、問題状況を変えようとする人権意識又は意欲や態度になり、自分の人権とともに他者の人権を守るような実践行動に連なると考えられるのである。」

(3) 本校の考える「教育活動において重視したい人権尊重の視点」

本研究主題に迫るために、「教育活動において重視したい人権尊重の視点」(以下「人権尊重の視点」と略記)を以下のように定義し、教育活動全体を通じての軸として、実践を進めることとした。

自己存在感 : 自分が大切にされ、必要とされていると感じる気持ち

共感的人間関係 : 自他の思いや考えが相互に受容され、高め合えるような関係

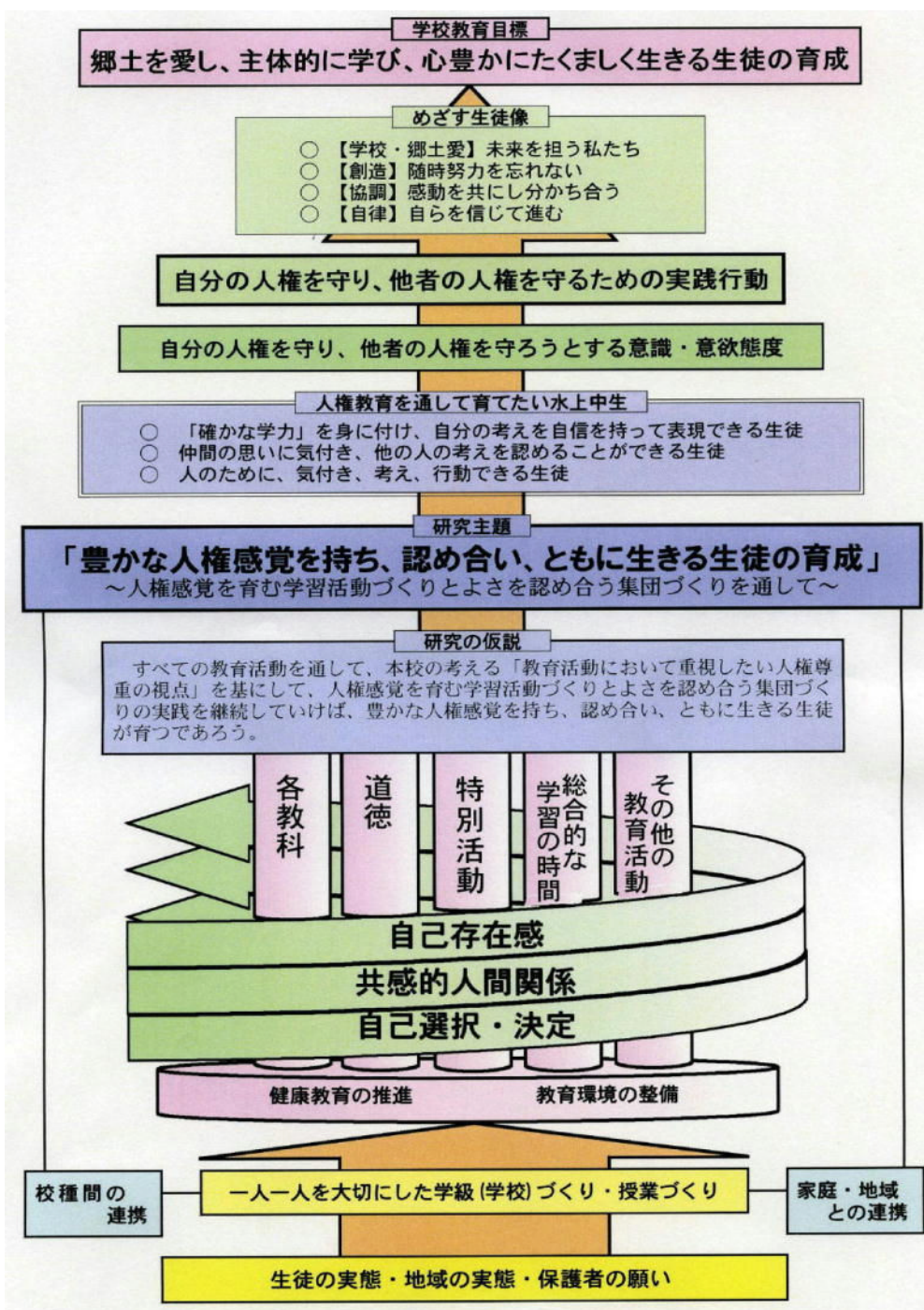
自己選択・決定 : よりよい解決を目指し、多様な価値や知識、方法の中から選択・決定する能力

2 研究の仮説

すべての教育活動を通して、本校が考える「教育活動において重視したい人権尊重の視点」を基にして、人権感覚を育む学習活動づくりとよさを認め合う集団づくりの実践を継続していけば、豊かな人権感覚を持ち、認め合い、ともに生きる生徒が育つであろう。

3 研究の構想

(1) 研究構想図



(2) 研究の視点

ア 人権感覚を育む学習活動づくり

「人権尊重の視点」に基づいて、一人一人の存在や思いが大切にされる日常の授業と人権尊重を感得できる環境のもとで、人権に関する知的理解・人権を尊重しようとする意欲や態度・人権を尊重するための技能を身に付ける取組を通じて、豊かな人権感覚の育成を目指す。

- ① 一人一人が大切にされる授業づくり
【各教科・道徳・学級活動・総合的な学習の時間】
- ② 小規模校の特性を生かした指導（あじさい学習）
- ③ 知識的側面の育成（個別的な人権課題についての学習の実施）
【道徳・学級活動】
- ④ 人権意識の高揚
【学校行事・総合的な学習の時間】
(ア) 学習発表会での生徒発表
(イ) 人権の三角旗の取組
- ⑤ 人権が尊重される環境づくり（人権コーナーの設置）

イ よさを認め合う集団づくり

「人権尊重の視点」に基づいて、生徒主体の活動、体験的な活動、地域の教育力の活用の3つの面からの取組を通じて、互いのよさを認め合い、支え合い、ともに生きる集団づくりを行う。

- ① 生徒の自主性を高める諸活動
(ア) 全校集会
(イ) あじさいギネス
(ウ) いじめ根絶宣言の採択
- ② 体験活動の重視
(ア) 縦割り班による諸活動と相互評価の実施
(イ) 地区生徒会・縦割り班・専門委員会等によるボランティア活動
- ③ 家庭・地域との連携
(ア) 学級通信等による発信
(イ) 「さくらファイル」等を使った保護者との双方向の交流
(ウ) 地区懇談会・PTA人権教育講演会による啓発の推進
(エ) 地域行事への参加

研究の内容

1 人権感覚を育む学習活動づくり

人権感覚を育むためには、自他の人権について考え、発信する活動を教育活動全体を通じて展開する必要がある。本校では、授業研究部を中心にして、研究授業により仮説を検証し、日常の指導方法等の工夫・改善を行うことで、人権感覚の育成を図っている。

そのために、「人権尊重の視点」に基づいた「指導の観点」を次のように設定し、教育活動全体で意識しながら学習活動を行っている。

「指導の観点」

1 自己存在感

- 1-① 学習活動への主体的参加のためにグループ作りや座席の工夫など、環境づくりを行う。
- 1-② 習熟度や興味・関心を把握し、解決するための教材や手立てを準備し、課題設定を行う。
- 1-③ 承認や称賛、励ましの言葉をかけ、結果にこだわらず思考過程や学習過程を認める。
- 1-④ 意図的な指名や抜擢など、一人一人が活躍する場や課題を設定する。
- 1-⑤ 生徒の様々な表現活動において自由な発想や方法を認める場をつくる。
- 1-⑥ 互いの発言をしっかりと聴く習慣や誤答を大切にすることを身につけさせる。
- 1-⑦ 協力して活動できる場を工夫し、互いの考えや方法のよさに気づかせる。
- 1-⑧ 一人一人の呼称に敬意を払い、目を見て話し、意見をじっくりと聞く。
- 1-⑨ 学習活動に積極的に参加できるように配慮し、個に応じた改善課題や改善方法を示す。

2 共感的人間関係

- 2-① 他者の失敗や弱さに思いやりを持ち、互いに尊重し合う人間関係づくりを行う。
- 2-② 一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりを行う。
- 2-③ 他者の発言や表現、作品のよさに気づき、学ぼうとする態度を持たせる。
- 2-④ 自分の考えと異なる意見や感情について理解する技能を持たせる。
- 2-⑤ 他者の立場に立って自分の言動を選択・構成する態度を持たせる。
- 2-⑥ 互いの役割や責任を認め合う態度を持たせる。

3 自己選択・決定

- 3-① 複数の学習課題の中から適した課題を選択する機会を設定する。
- 3-② 学習の見通しを持った計画立案のための支援を行う。
- 3-③ 課題解決のための多様な教材・教具を準備し、選択の幅を与える。
- 3-④ 相手や内容に応じた多様な表現方法や表現スキルを示し、選択の幅を与える。
- 3-⑤ 学習内容に応じた多様な学習方法や学習形態、活動の場を示し、選択の幅を与える。
- 3-⑥ 自分の課題や方法に基づいて活動内容や活動の場を選択する機会を設定する。
- 3-⑦ 学習内容に応じた多様な学習成果の記録方法や整理方法を示し、選択の幅を与える。
- 3-⑧ 自他の学習課題や解決方法、学習方法や記録方法を振り返り交流する時間を設定する。
- 3-⑨ 学習の振り返り後、新たな学習課題や学習方法についての選択・決定の場を設定する。

さらに、指導を通じて育てたい資質・能力を次のように設定した。

1 知識的側面

- (1) 人権尊重の概念の理解
- (2) 人権の発展・人権侵害の歴史や現状に関する知識
- (3) 人権課題の解決に必要な概念に関する知識
- (4) 人権問題の主要な法令や活動している機関等に関する知識

2 価値的・態度的側面

- (1) 自他の価値を肯定的に尊重する感覚や態度
- (2) 多様性への開かれた心と、肯定的に評価する態度
- (3) 人権侵害を受けている人々を支援し、理想に向かって活動する意欲や態度
- (4) 自己の行動に責任を持ち、社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度

3 技能的側面

- (1) 他者を共感的に理解しようとする豊かな想像力や感受性を持ち、受容する技能
- (2) 能動的に聴く態度とコミュニケーションの技能
- (3) 他者と対等で豊かな関係を築く技能
- (4) 偏見・差別等を見きわめる技能
- (5) 対立的問題を平和的・建設的に解決する技能
- (6) 公平で均衡のとれた結論を導き出す技能

(1) 一人一人が大切にされる授業づくり

人権が尊重される学習活動づくりでは、日常の授業において一人一人の存在や思いが大切にされる環境のもとで、生徒一人一人の学習意欲を高め、よさや可能性を発揮できるように指導の充実を図る必要がある。これは、「確かな学力」を育むことにもつながると考える。

ア 校内研修の取組（授業研究部を中心とした指導方法等の改善）

生徒に「確かな学力」をつけるには、指導と評価の一体化を図る必要がある。そのためには、教師一人一人の指導力の向上が不可欠となるため、一人一回の研究授業に取り組んできた。そして、研究主題と本時の目標に迫るために、授業研究部を中心に、以下の取組を行った。

- (ア) 学習形態の工夫、授業規律等について共通理解
- (イ) 学習指導案に「人権尊重の視点」を位置付け、「指導の観点」をもとに設定
- (ウ) 研修を深めるため、参観者は「一人一役」を受け持ち、授業を記録するとともに、「共通の視点」記入用紙に気付きを記入して、授業研究会に参加

研究授業（2年英語）



イ 授業の実際

(ア) 自己存在感の育成に関する指導事例

自分では短所と思われる部分も、見方・考え方を変えることで長所と成り得ることに気付き、自分を見直し、ひいてはそれが自信につながることで自己存在感を高める、リフレーミングの学習を行った。

リフレーミングの学習



リフレーミングの学習指導案（一部）

	学習活動（時間）	教師の支援	人権尊重の視点
気づき	1 リフレーミングについて知る。（5分）	○ 例題を考えさせる。 例 暗い→落ち着きがある	
	2 リフレーミングに取り組む。（5分） ※ 保護者にもワークシート配布	○ 明るい、プラス思考の言葉を考えさせる。	
	3 2の結果を出し合う。（12分）	○ 明るくプラス思考の表現になっている回答例を数例出させる。	
本時の目標：リフレーミングにより、自分のよさを知ろう			
考え	4 隣とペアとなり、短所をリフレーミングする練習を互いに行う。（10分）	○ 3を踏まえて、返答する相手がうれしくなるような表現をし合うようにはたらきかける。	◆ 自己選択・決定 3-④

(イ) 共感的人間関係の育成に関する指導事例

相手を共感的に理解しながら自分の考えを的確に伝える技能を習得するため、アサーション（非攻撃的自己主張）トレーニングを行った。なお、アサーショントレーニングは、自己選択・決定の育成にも関連している。

アサーションの学習



アサーションの学習指導案（一部）

学習活動	主な発問・指示（○：発問 ●：指示）	予想される生徒の反応	教師の支援・留意
1 飲食店における寸劇を見る。	○ あなたはお客様に賛成ですが、それとも反対ですか。	・ 賛成だな。 ・ ちょっと言い過ぎではないだろうか。	（* 発問者の意図を認め、客（教師）は攻撃的主張・賛成、反対の意見を問・身近なこととして考えさせる。
2 本時の目標を把握する。	● よりよいコミュニケーションについて考えよう。	・ どんなコミュニケーションかな。	・ 身近なこととして考えさせる。
3 3人組のグループを作り、同じ場面だったらどのようにコメントするか考え、ロールプレイを行う。	○ 同じ場面で、みんなだったら何と言うか考えてみよう。 ● グループでロールプレイをし、代表する意見をまとめよう。	・ 何と言うかな。 ・ 自分と同じコメントだ。 ・ 自分と違うコメントだ。 ・ そういふ言い方もあるな。	・ 率直なコメントを記入をかける。 ・ 役になりきって表現させる。
4 コメントを出し合う。	● 各グループのコメントを発表し合う。	・ 私たちのグループではー ・ 何とも言えない。	（* 発表者を賞賛する。）
5 コメントの特徴を考える。	○ お客のコメントに違いがあったかな。どこが違っていますか。 ○ 相手に自分の気持ちを理解してもらおう時、どんなコメントをすることが大切なんだ。	・ 丁寧な言い方だった。 ・ 印象がよかった。 ・ 伝えたいことを言う。 ・ 優しく伝える。	・ 出されたコメントでやり取り、印象の違いを第三者にとっても印象に気づかせる。 ・ 言いにくいことを伝え、思わず、構っていない。

(ウ) 自己選択・決定の育成に関する指導事例

2年生のキャリア教育では、職場体験学習を通じて、将来の夢をかなえるために必要なことを考え、行動を決定する授業を行った。

進路学習（2年学級活動）



進路学習指導案（一部）

学習活動	主な発問・指示（○：発問 ●：指示）	予想される生徒の反応	教師の支援・留意
1 職場体験の様子を視聴する。	● 職場体験の様子を撮影したビデオを見ましょう。	・ 友達とどんな体験をしたんだろう	・ 職場体験で撮影していたことで、本時の学習へ促める。
2 本時の目標を知る	将来の夢をかなえるために必要なことを考えよう。		
3 職場体験学習でインタビューし、まとめたことを班ごとに発表する。 A: インタビューから分かったこと B: 職場体験学習を通して考えたこと	● 職場体験学習でインタビューした内容を発表しましょう。	・ 自分が体験したことを分かりやすく発表しよう ・ どんな職種で仕事をしたいのか知りたくない ・ どんな努力をしているのか聞いてみたい	・ 6班それぞれが、4つのAとBをまとめ発表（ポイント） ① 仕事を選んだ動機 ② 努力 ③ 仕事の苦分（※仕事の楽しさ） ④ 発表内容をカードに書き、ことにかけて用紙に貼らBを対比できるようにする
4 AとBを比較して考えたことを発表する。	○ AとBを比べて共通している点と違う点を発表しましょう。	・ 違う点を出させること ・ 聞いていた人たちは興味がある ・ 努力をして資格を載せること	・ 違う点を出させること ・ 聞いていた人たちの仕事に対して考えさせる。
5 夢をかなえるために、自分に今、必要なことを考え、発表する。	○ 夢をかなえるために、自分に今、必要なことは何でしょう。	・ 夢があったらいいな	・ これまでの自分の生活を振り返り書き出させる。

(2) 小規模校の特性を生かした指導（あじさい学習）

生徒一人一人の学習意欲を高めるため、ある学年の授業を他学年が参観するあじさい学習を実施している。

昨年度のあじさい学習では、以下の点をねらいとして実施した。

ア 参観した生徒が、授業を受けた学年の発表の仕方や集中力等のよさを記録し、学習後の「輝き発表」で発表することを通じて、自らの学習態度や学習内容を向上させること（学級活動「学習方法の反省と工夫」に位置付けて実施）

イ 研究授業を受けた学年は、それまでの学習の成果を発揮する場とするとともに、他学年から肯定的評価を受けることで、自信と誇りを持つこと

今年度は、態度面のよさを認め合うことからさらに一步踏み込み、授業を参観する生徒が、授業を受ける学年の発表内容のよさを認め、学習内容に対する意見等を交流し合うことに重点を置いている。

あじさい学習①（1年道徳）



あじさい学習②（3年道徳）



私は上司が素晴らしい人だと最初は思っていたのですが、「ミエンさんも勇気があってすごい人だ」という発言を聞いて、納得しました。

（3）知識的側面の育成（個別的な人権課題についての学習）

人権教育の知識的側面の育成については、知識内容を自らのものとして肯定的に受け止め共感するための主体的な学習が必要である。ここでは、同和問題についての学習とハンセン病回復者等の人権についての学習を紹介する。

ア 同和問題についての学習

6月の人権週間・いじめ根絶月間に合わせて、同和問題についての学習を実施した。前半は、部落差別の歴史について学習し、差別の不合理に気付くとともに、その原因について考えた。後半は、差別に立ち向かった人々の姿から、同和問題をはじめ、あらゆる差別や偏見、そしていじめを許さない態度の大切さについて、役割演技を取り入れる等、学習過程を工夫しながら学習をすすめた。

イ ハンセン病回復者等の人権についての学習

事前アンケートの分析結果をもとにして、ハンセン病について正しく理解する学習を行った後、人権啓発映画「新・あつい壁」を全校生徒で視聴した。その感想をもとにして自己を見つめ直し行動化につなげるための事後学習を行い、ハンセン病回復者等の人権に関する正しい知識の普及・啓発に取り組んだ。

研究の成果

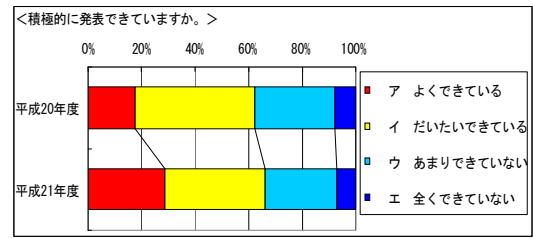
(1) 「人権感覚を育む学習活動づくり」について

ア 教育の基盤としての人権教育の充実や学習環境の整備、授業研究部を中心とした指導方法等の工夫・改善、あじさい学習の実施等に取り組んだ結果、学習意欲が高まり、積極的に発表する生徒が増えた。

また、今年度の全国学力・学習状況調査は右表の成果をあげることができた。特に、国語、数学共に「B：主として活用」が良好であった。

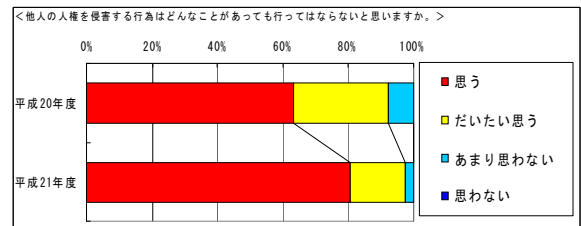
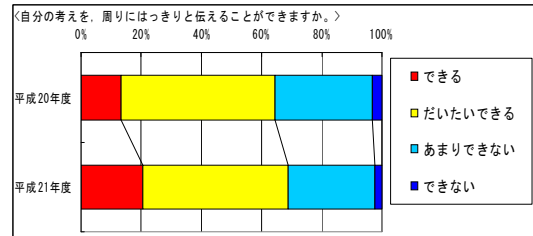
イ アサーショントレーニング等を通じて、相手の気持ちを考えながらも自分の考えを適切に伝えることの大切さに気付き、行動化しようとする場面が増える等、共感的人間関係と自己選択・決定の力が高まった。

ウ 個別的な人権課題についての学習や学習発表会での取組、人権の三角旗の取組を通じて、人権侵害を否定し、人権を守ろうとする意識・意欲・態度を高めることができた。



平成21年度全国学力・学習状況調査平均正答率

	国語A	国語B	数学A	数学B
本校	75.6	81.8	64.5	60.0
県	77.7	76.3	63.0	58.2
全国	77.0	74.5	62.7	56.9



平成20・21年度生徒アンケート「人権尊重の視点」関係 比較結果

観 点	項 目	H20 達成率 (%)	H21 達成率 (%)
自己存在感	人権の大切さは憲法などに示されていることを知っている	86.7	92.2
	自分のよいところを知っている	43.3	54.2
	何事にも進んでチャレンジしようとする	72.2	78.3
	友達に何でも相談できる	73.3	76.6
	夢を持っている	81.1	87.9
	学校に行くのが楽しい	86.7	91.5
	水上村が好き	88.9	90.3
共感的人間関係	他の人のよいところに学ぶことがある	95.6	96.4
	自分と同じように、相手のことを大切にできる	85.6	90.3
	あいさつは誰に対しても明るく元気にできる	78.9	87.9
	周りの人や物に対して、感謝する気持ちを持っている	93.3	96.3
	周りの人にいやがることをいったり、したりしていない	84.4	92.7
	考えや感じ方には、それぞれ違いがあってもよい	98.9	100.0
	誰かがつらい思いをしているとき、一緒に考える	76.7	86.7
自己選択・決定	他の人への人権侵害は絶対してはならない	92.2	97.5
	自分の行動を振り返り、反省することができる	77.8	86.7
	自分の考えを周りにはっきり伝えることができる	64.4	68.6
	周りに困っている人がいたら助ける	88.9	95.1
	他の人たちと協力できる	94.4	96.6
	おかしいと思うことや誤った考え方に対して「違う」と言える	63.3	72.2
	いじめや人権侵害を止めようとする	80.0	83.1

※ 着色箇所は、前年比8ポイント以上向上した項目